

選挙特集

分かち合おう、思い

とどけ、私たちの声



菅原亜美さん(一関修紅高校3年)

「子育て支援や社会保障制度に興味があります」と話し、選挙権年齢の引き下げによって、同世代が政治に興味を持つことに期待を寄せている

選挙権年齢の引き下げは7月の参議院選挙から

選挙権年齢を「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げる改正公職選挙法は、昨年6月17日に可決、成立しました。

選挙権年齢の引き下げは、若年層の政治参加を促進する改正です。

政策は投票結果に左右されやすいといわれています。現在の政治は、選挙に関心が低い若い世代よりも、実際に投票所に足を運ぶ高齢世代を重視した政策が多いという指摘があります。

でも、政治に対して「希望が持てない」「魅力を感じない」と黙って待っているのも何も変わりません。若者が住みやすい社会をつくるためには、まず、若者自らが投票することが重要です。仮に、自分の考えと同じ候補者や政党が見つからない場合でも、自分の考えに近い候補者や政党を見つけて投票することが、地域や暮らしを良くする第一歩です。(特集11ページまで)

あいな人 File_39 いちのせきを愛する人

一関17民区の広報を作成して8年

吉家省吾さん

Kikka Syogo 70 五十人町

身近な話題や旬の情報を発信 伝え続けて800号



一関17民区(武田勝郎区長)の広報が、2016年5月15日号で発行800号を迎えた。作成しているのは、同民区の吉家省吾さん。企画から印刷まで一手に担う。

吉家さんが前任の担当者から広報の仕事を引き継いだのは08年の9月。以来、8年間欠かすことなく作り続けている。長く続ける秘訣を「意気込まないこと」ときっぱり。原稿は、パソコンを駆使して毎日少しずつ仕上げていく。「広報作りが生活の一部になっている」と話す吉家さん。編集に必要な技術は、独学で身に付けた。

同広報の第1号が誕生したのは、1974年。当時は手書きのガリ版刷りで不定期に発行し、民区内の各班で回覧していた。現在は、B4版両面印刷1枚を毎月1日と15日に発行し、民区内の約600戸に全戸配布している。紙面で扱うのは、民区の年間行事や親睦旅行などの身近な話題をはじめ、振り込め詐欺や高齢者の免許更新などの旬な情報。季節感のある紙面を心掛け、「ネタ」が無いときは、書籍やインターネットで雑学を仕入れる。そうして載せたコラムが意外に好評だという。「面白かったといわれるのは何よりもうれしいし、励みになる」と笑みを浮かべる。

吉家さんは、1946年に北上市で生まれた。看護師として盛岡市や本市の病院などに勤務。19歳のときに始めた登山が、生涯の趣味となった。74年の茨城国体にも出場したほどの実力者。多いときには、年間120日を山で過ごした。現在も登山愛好団体の代表を務める。山への情熱は衰えない。登山の魅力が「何にも束縛されず、没頭できると

ころ」と語る。「妻のおかげで好きにやっけてこられた」と妻の紀代子さんに感謝する。登山で培った集中力とスタミナは、広報作りの原動力にもなっている。

「800号は通過点。1000号までは続けたい」と話す。いま気になっている話題は、自転車のマナー。昨年に道交法が改正され、交通事故が増えるのではと危惧する。「民区の中から被害者も加害者も出たくない。広報がその一助になれば」と願っている。

1000号発行というはるかな頂に向かつて、吉家さんは今も登り続けている。

Profile

1946年、北上市生まれ。看護師として盛岡市や本市の病院などに勤務した。76年に紀代子さんと結婚。2008年9月に民区の教宣部長となり、広報を作り始める。趣味は登山で、登山教室の主任講師も務める。好きな山は須川岳。

New Collection

ニューコレクション試着予約会

6.20 [mon] - 7.18 [mon] [TIME] AM10:00~PM6:30 [PLACE] プライダルサロン七福人

0120-188-500 E-mail: info@bs-shichifukujin.com

岩手県奥州市水沢区佐倉河字慶徳44-1 営業時間/10:00~18:30 [水曜定休]

桂由美 Debat From Shichifukujin

新作衣裳をいち早くチェックしましょ♡